

つどう

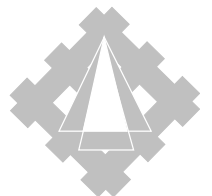
まなぶ

むすぶ

福井市の公民館



創刊号



活動と活動を結ぶ新しい通信 — 発刊によせて —

福井市中央公民館運営審議会 委員長
福井市社会教育委員の会議 副委員長 柳澤 昌一



一人一人がそれぞれの持ち場で役割を果たしているからこそ、わたしたちの地域社会は成り立っています。しかし、任が重くなるほど、自分の仕事のことで精一杯になってきます。自分たちだけ忙しく取り組んでいるように感じる。多くの人に理解されていないと感じる。活動が個々に取り組みられていてもそれぞれが孤立し、地域を支える協働の力につながらない。「絆」という言葉がこの国の多くの地域で、切実な課題として語られる理由の一つがそこにあると思います。

歩いて集える身近な地域に、個々の枠を超えて活動と活動を結ぶことに心をくばり、その環を持続的に育もうとする人たちがいる。その結び培う営みの拠点が目に見える形である。そうした働きと拠点のある地域と、個別の活動しかない地域。私たち福井市の先人は前者を選び、つながりを育む拠点として小学校区に公民館を築いてきました。49の公民館が、地域の多様な活動を結び、学び合うコミュニティを培う仕事を大切に重ねています。

そうした49の個性ある地域と公民館の活動を結び、そこにある智慧を共有する。中央公民館を結び手とする通信が生まれます。それは結び合う力をさらに大きく市全体のものとし、より広く、また長く共有するための新しい挑戦です。この通信の発刊と発展に期待します。

福井市の公民館（つどう・まなぶ・むすぶ） — 発刊によせて —

生涯学習室 室長 倉 美幸



「福井市の公民館」創刊にあたり、ご挨拶を申し上げます。
本市の公民館は、昭和21年12月1日に、福井市の公会堂の玄関に公民館の看板を掲げ、議事堂で学級・講座を実施することからはじまりました。

以来、市内に49ある地区公民館では、実生活に即した困りごとや地域全体に及ぶ課題などについて、住民たちが集い、話し合い、そして学習を積み重ねることを通して、共通した目的に向かいつながっていく環境を育んできました。その結果、地域の特色を活かした活動が進展し、地域を担う人材の育成や地域の発展に大きく寄与しています。

また、歩いて気軽に通える場所に公民館があり、言わば地域にとってお茶の間のような存在として親しまれていることも、地域に密着した活動ができる要因ではないかと感じています。

このたび、中央公民館では、地区公民館の特色ある活動事例を収集し、情報発信する事業を始めました。地域とともに歩んできた本市公民館の取組は県内外から大変注目されていますが、各館の情報をとりまとめ、広報誌として発刊し、様々な活動事例を共有することは、本市にとって大きな力となり、更なる公民館事業の推進につながるものと期待しています。

福井市の公民館

福井市の公民館は、原則、小学校区ごとに設置され、地域に密着した職員体制（地区選考内申）のもと、社会教育、生涯学習及び地域活動の拠点としての役割を果たしている。

また、各公民館には各種団体、住民の代表等で構成される公民館運営審議会を設置し、民意を十分に反映した中で、地域住民との協働のもとに運営されている。

1 公民館の特徴

- 原則、小学校区ごとに公民館を設置（49地区館、6分館、中央公民館）
- 各公民館に運営審議会の設置
- 福井市方式（半官半民）の運営方法
- 各種教育事業の展開
- 地域活動をコーディネート



2 公民館の歴史

- S21. 7. 5 公民館施設の文部省次官通牒
12. 1 福井市初の公民館として、教育課内に福井市公民館設置
- S35. 4. 1 公民館設置体制の確立（地区館として、小学校区毎の設置となる）
- S46. 4. 1 第1次公民館整備計画の開始 整備基準 人口5,000人以上：延床面積330㎡ 未満：230㎡
- S54. 4. 1 第2次公民館整備計画の開始 整備基準 人口5,000人以上：延床面積441㎡ 未満：375㎡
- S59. 4. 1 出張所廃止に伴う公民館主事体制の強化（2年間で概ね各館1人増員を図る）
- H 2. 4. 1 第3次公民館整備計画の開始 整備基準 人口5,000人以上：延床面積550㎡ 未満：440㎡
- H 6. 4. 1 第3次公民館整備計画の改正（福祉のまちづくり環境整備の一環 身障者トイレ等の整備）
- H 9. 4. 1 第3次公民館整備計画の改正
整備基準 人口10,000人以上：延床面積750㎡ 5,000人以上：625㎡ 未満：520㎡
- H22. 4. 1 公民館主事配置基準の見直し 配置基準 人口5,000人以上：3人 未満：2人
公民館主事 委嘱時の年齢制限撤廃（従来、委嘱時63歳未満であることが要件）
週35時間勤務（従来30時間）
地域コミュニティのコーディネーターとして、各種団体の支援・連絡調整を行うことを付加
- H23. 4. 1 公民館長 勤務体制の見直し 週16時間勤務（従来8時間）

3 優良公民館の表彰

※S22年の殿下公民館は、生活科学化協会、毎日新聞社の表彰

※H15年以前は文部大臣、以後は文部科学大臣表彰

受賞年月日	公民館名	備考	受賞年月日	公民館名	備考
S22. 11. 3	殿下公民館	当時は、殿下村公民館 第1回受賞	H16. 10. 29	啓蒙公民館	
S52. 11. 3	順化公民館		H17. 10. 31	岡保公民館	
S62. 11. 5	社南公民館		H18. 10. 6	春山公民館	
H 3. 11. 5	中藤島公民館		H19. 10. 22	麻生津公民館	
H 4. 11. 2	旭公民館		H21. 11. 5	湊公民館	
H 5. 11. 1	東藤島公民館		H23. 11. 18	円山公民館	
H13. 10. 22	東安居公民館		H24. 11. 13	森田公民館	
H15. 10. 23	東郷公民館		H26. 3. 4	社北公民館	最優秀館(H25年度創設)

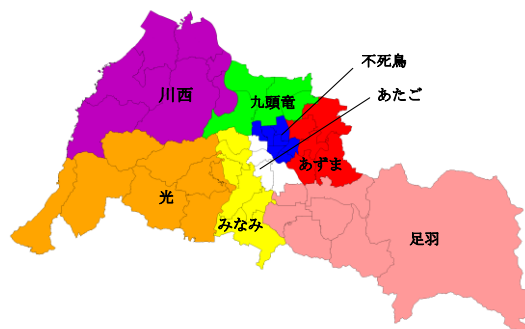
4 地区公民館の概要

現在、地区公民館では、社会教育施設としての機能のほか、地域活動、まちづくりの拠点など、地域コミュニティを支える役割が増えてきており、住民の期待も大きくなっている。

このような状況の中、平成22年度には、公民館長、主事の勤務体制の見直し（勤務時間の延長）が行われ、その中で、地域コミュニティにおける各種活動のコーディネーター役が職務の一環として位置づけられ、地域の活動の支援及び連絡調整を行っている。

福井市内にある49の地区公民館は8つのブロックで構成されており、それぞれのブロックの公民館において展開している特色ある事業についての情報交換や公民館が抱える現代的・地域的な共通課題の解決に協力して取り組んでいる。また、公民館職員、運営審議会委員を対象とした研修会を実施し、職員の意欲と資質の向上に努めている。

ブロック	No.	館名	所在地	ブロック	No.	館名	所在地	
あたご	1	木田	木田1丁目1401	光	28	安居	本堂町7-4	
	2	豊	みのり3丁目106-8		29	一光	下一光町6-5	
	3	足羽	足羽2丁目12-31		30	殿下	風尾町1-13	
	4	湊	学園1丁目4-8		31	越廼	菜崎町1-68	
不死鳥	5	春山	文京3丁目11-12		32	清水西	大森町20-43-1	
	6	宝永	松本4丁目8-4		33	清水東	三留町14-11-1	
	7	順化	大手3丁目11-1		34	清水南	風巻町21-17	
	8	松本	文京1丁目29-1		35	清水北	グリーンハイツ5丁目131	
	9	日之出	四ツ井1丁目7-24		川西	36	大安寺	四十谷町5-20-1
	10	旭	手寄2丁目1-1			37	国見	鮎川町195-7
	11	日新	文京5丁目1-8			38	鶉	砂子坂町5-58
みなみ	12	清明	下荒井町8-414	39		棗	石橋町4-14	
	13	東安居	飯塚町6-18	40		鷹巣	蓑町16-2-1	
	14	社南	種池2丁目206	41		本郷	荒谷町19-55	
	15	社北	若杉4丁目308	42	宮ノ下	島山梨子町22-9		
	16	社西	久喜津町65-23	足羽	43	酒生	荒木新保町37-9-5	
	17	麻生津	浅水三ヶ町1-93		44	一乗	西新町1-31	
あずま	18	和田	和田東1丁目1504		45	上文殊	北山町34-1	
	19	円山	北今泉町7-12		46	文殊	太田町4-11-2	
	20	啓蒙	開発1丁目2105		47	六条	天王町43-4	
	21	岡保	河水町10-13		48	東郷	東郷二ヶ町6-13-1	
	22	東藤島	藤島町48-1-1		49	美山	美山町2-12	
九頭龍	23	西藤島	三郎丸1丁目1410	50	中央	手寄1丁目4-1アツサ5F		
	24	中藤島	高木北2丁目1001					
	25	河合	川合鷺塚町9-18					
	26	森田	下森田藤巻町2					
	27	明新	灯明寺町35-1-1					



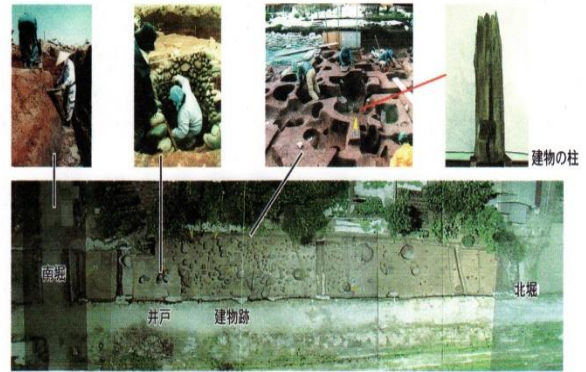
学びが支えるまちづくり事業

—文化と活力のあるまちを目指した、地域活性化の取り組み—

森田公民館

1 森田地区の概要

森田地区は、福井市の北部に位置し、坂井市に隣接している。面積は5.8平方キロになり、九頭竜川の沿岸に位置している。ここ数年は、90年代後半から始まった土地区画整理事業に伴い、道路や新幹線用地の整備が進み、住宅やアパートが多数建設され、人口増加が著しい地区になっている。平成20年5月には地区東部に、コシヒカリをイメージしてデザインされた「配水塔マイアクア」が完成し、森田のランドマークとして注目されている。



石丸城跡の発掘

2 遺跡発掘がきっかけとなって

区画整理事業に伴って、「石丸城があった」といわれていた場所の発掘調査が行われ、堀の跡、大きな建物の跡、生活用品が次々と現れてくるとともに、古くから伝えられていた「館の前」「館の中」という字名が、それぞれ堀の外、堀の内側に位置していたことが確認された。「太平記」に出てくる新田義貞や城主であった義貞の弟の脇屋義助が活躍する石丸城がこの地にあったことが確認され、地区民の喜びはひとしおであった。しかも堀の付近から南北朝時代の武士が着用していた烏帽子も出てきた。

この遺跡のある場所を、歴史のロマンを感じる「公園」にしていくために、公民館は福井学の講座を開設し、歴史学者を講師に招き、学習を始めることにした。

(1) 新田義貞、脇屋義助を知ろう

講師から「太平記」の越前での戦いのくぐりを解説していただき、「戦いの起こった理由」「新田義貞、脇屋義助が戦った様子」「石丸城まで来た経路」を学習してきた。学んだことは文化委員の協力を得ながらパネルにし、文化祭で展示して広くアピールしてきた。

(2) 脇屋義助の軌跡を訪ねる館外学習

平成22年には、群馬県太田市の新田義貞、脇屋義助の菩提寺を訪問、平成23年には愛媛県今治市で病死した脇屋義助の墓参を行った。1・2回目とも、バスの中では南北朝時代の国内の様子や、福井学での学習を発表し合ったり、大河ドラマ「太平記」のビデオを見たりして、研修を積んだ。

平成24年は奈良県吉野町の後醍醐天皇の御所跡を、25年は歴史のロマンを求め、鎌倉をそれぞれ訪れ、1年に1度の県外学習を、次の活動へのエネルギーとしている。

(3) 三峰城跡保存会の人たちとの交流

鯖江市の三峰頂上には脇屋義助の大きな顕彰碑があり、毎年除草その他で大切に管理をされている。福井市の「春祭り時代行列」では、毎年森田地区からも脇屋義助隊として30数名が武者姿で参加しているが、三峰保存会の方々にも参加していただくなど、お互いに訪問しあい交流を深めている。

(4) 子どもたちにも伝えよう

地域の人から募集した、「石丸城」を偲ぶ歌に曲をつけ、公園予定地で発表、披露を行った。また、歴史的文化遺産や脇屋義助のことを、小冊子にして伝える講座にも取り組み、冊子やCDを小・中学校

に配布したり地域のの人に販売したりしている。

3 JR森田駅の活性化

(1) 簡易委託販売駅をきっかけに

平成 11 年 J R 西日本が森田駅の無人化を打ち出した。地域の衰退を憂いた地元自治会が簡易委託方式による市の管理を福井市に要望し、無人化を免れた。

その時以来、文化委員会と公民館は、駅活性化の取り組みを進めてきている。

(2) 森田地区民に愛される駅を目指し

公民館の文化委員会は、平成 22 年 2 月「もりた夢駅～冬物語」のイベントを実施した。仁愛女子短期大学の学生による音楽コンサートや子どもコーナー、文化委員会によるイルミネーション設置など、華やかな森田駅を演出した。その活動が市を動かす原動力となり、駅舎内にギャラリーが作られ、その後定期的に「夏物語」「冬物語」を続けて開催している。



また、駅舎前が雑然としていたのを「花もも大作戦」と銘打ち、文化委員総出の作業で 10 本の桃の木を植えた。その後、駐輪場の壁面に仁愛短大と協力して、ペインティングも行った。何年後かは花桃とともに駅のシンボルとなるであろう。

4 九頭竜川を誇りにしよう

(1) 堤防に並ぶ謎の県外ナンバー

九頭竜川は、サクラマスのブランドリバーと言われ、多くの釣り客が訪れる。ただ、地区民はそのことを知ることなく、釣り客との友好関係を作ることができ

ずにいた。

そこで、関係者の方の協力を得て、「サクラマスサミット」を開催し、専門家の講演や、座布団集会での話を聞いたりしてサクラマスへの知識を研鑽してきた。

(2) 釣り客の話から

「サクラマスサミット」に参加された県外釣り客の方の手紙の中に、毎回袋いっぱいのゴミを拾って持ち帰るとは……。驚きのフレーズだった。

このことが機となり、「九頭竜川クリーン作戦」が始まった。26年度からは、近隣の公民館や、中部漁協と一緒に開催した。将来は、九頭竜川の上流から下流まで「クリーン作戦」の運動が広がっていくことを夢見ている。



5 終わりに

公民館では、まちづくりを推進していくために将来ビジョンを作成し、実行に移している。区画整理事業が進むにつれ、森田地区に誇りを持ち『森田に住んで良かった、これからも住み続けたい』と思う人を増やし、地元民と新住民との融和を図ろうとの活動が少しずつ実を結びつつある。今後も、将来ビジョンを実行に移していくことがまちづくり活動を理解するための指針になり、ひいては公民館の応援者がますます増えていくことを願っている。

森田公民館は、地区にある様々な社会的資源や課題を把握し、それらを「まちづくり」推進のための活動につなげてきたことが評価され、平成 24 年度文部科学省優良公民館として表彰されました。その地域活性化のための意欲的な取り組み内容を紹介しました。

社北公民館発！ ～ぐるぐる広がれまちづくりの環・和・輪～

社北公民館

1 地域密着型の公民館

社北公民館は、地域密着型の公民館として、地域の団体や住民と密接に関わりを持ちながら事業を行っている。現在、実施している5つの教育事業や地区事業、まちづくり事業などは、すべて地域住民が運営にかかわって活動している。しかし、運営にかかわる住民は運営審議会委員など公民館に近い存在の人が多く、幅広い地域の声が事業に反映されていないケースもある。その結果、地域活動への参加や公民館の利用が広がらないという問題もあった。そこで、世代を超えた幅広い地域のニーズを館の事業に取り入れていくために、社北公民館ではPDCAサイクルの活用を始めた。

2 PDCAサイクルの取組

～チャオカード作戦～



チャオカードキャラクター



社北公民館の特徴的な教育事業として、チャオカード作戦がある。この作戦は、親子が一緒に体験型学習に取り組むことで、親子の絆を育み子どもの健やかな育成と健全な家庭環境づくりを目的に、地域のくすみ児童館と共同で開催している。

福井市の児童館は、福井市社会福祉協議会の組織で、福井市生涯学習室に所属する公民館とは全く別の組織である。そのため、社北地区のように公民館と児童館が連携して事業に取り組むことは市内の他の地域では例がない。しかし、私たちは、職員同士の交流をきっかけに、平成21年度から共催事業としてスタートした。チャオカードとは、「いっちゃん」「やっちゃん」

「あつめちゃん」という3つのキャラクターから命名したポイントカードである。チャオカード作戦では年間12回の学習を行っている、1回の学習に参加するこのチャオカードに1ポイントがもらえる。年度末の最後の学習では、1年間にたくさんのポイントを集めた親子を表彰している。表彰してもらうことが参加意欲の継続につながり、毎回、参加する親子が増えている。

【Plan】

チャオカード作戦は、2月から3月にかけて、児童館職員と一緒に、年間の学習計画を立てる。

打ち合わせでは、前年度の反省点や参加者の要望を取り入れ、新しい企画の検討や、活動の進め方や運営に協力してもらう団体への依頼など、何回も時間をかけて計画を練り上げている。

【Do】

4月からは、計画に基づき学習活動を行っている。参加者には、地域に配布する公民館のお知らせや、小学校を通じて子どもたちに配布する児童館のお知らせなどで呼びかけている。月1回の学習活動には毎回100名前後の親子が参加している。多いときには、200名を超える参加もあり、いつも大盛況である。学習活動の運営は、公民館と児童館の職員で行っている。ファミリーウォークラリーや親子やきいも大会など、多くの人手が必要な活動では、運営審議員や民生委員、中学生など地域の人たちに協力をお願いしている。それぞれの学習活動を行う際には、公民館職員が、協力してもらえる方と事前に打ち合わせを行い、スムーズな運営ができるように、常に心がけている。

【Check】

各学習活動の終わりに、参加者へのアンケートを行っているが、気付くことがたくさんある。たとえば、ファミリーウォークでは、中学生のお姉ちゃんと一緒に楽しかったという声もあり、地域の大人や中学生たちとふれあうことも、チャオカード作戦の大きな魅力のひとつになっていることが分かる。また、毎年、継続している「親子でとんかち」では、昨年と比べて、わが子がノコギリの使い方がうまくなったと驚いている保護者の感想もあった。学校教育ではなかなか経験

できない親子の体験型学習は、子どもの成長を実感できる良い機会になっている。

【Action】

各学習活動の終了後には、参加者の様子やアンケートなどを基に、児童館職員や運営に協力してくれた地域の人たちと話し合いを持ち、内容や進め方について、改善点などを検討している。チャオカード作戦がスタートした最初の年には、「もっとお父さんが参加しやすい学習活動があるといいね」という意見をいただき、その翌年から、お父さんが参加しやすい日曜大工やスポーツチャンバラの学習活動を取り入れた。その結果、参加する保護者のうち、お父さんの割合は初年度は25%だったが、今では40%を超えるまで増えてきている。最近では、すべての学習活動に、お父さんが参加する家庭もある。



親子で とんかち

このように、参加者や運営協力者の声を取り入れながら見直しを行っていることが、参加者にも運営側にも楽しい学習活動となって、愛着を持てる事業につながっていると感じている。

3 PDCAサイクル活用の効果

PDCAサイクルの活用によって、公民館にいろんな変化があった。まず、私たち職員の意識が少しずつ変わってきたことである。今までは、毎年同じことを繰り返すだけだったのだが、今では、地域の声に耳を傾けて事業を見直す積極性が持てるようになった。たとえば、中学生たちが学校の文化祭で発表した地域の西部緑道公園の活性化案を聞いて、公民館が中心となり、西部緑道イルミネーションという新しいまちづくり事業をスタートしたのもその一例である。はじめは、電源をどのように取るかなど、新しい事業を行う苦労も多くあったが、なんとか地域の中学生たちの提案を形にしたいという想いで、みんなで話し合いながらひと

つひとつ解決していった。その甲斐あって、いまでは、地域の人たちにとっても楽しんでもらえる一大イベントになっている。もうひとつの変化は、若い世代の地域活動参加や公民館の利用が増えてきたことである。西部緑道イルミネーションをきっかけに、中学生たちが、いろんな地域活動に参加してくれるようになった。地域の社中学校では「1部活動・1ボランティア」を合言葉に、年間18回以上の地域活動に参加している。中学生たちが地域活動に参加するようになったことで、地域の人たちも、中学校を身近に感じるようになり、学校と地域との連携も深まってきている。また、最近では、乳幼児を持つお母さんたちのグループが毎週公民館を利用し、みんなで子育ての話をし、とても楽しい時間を過ごしている。公民館の子育て支援事業では、運営にも協力してくれて、私たちと一緒に楽しくイベントを開催している。



子育て支援事業 クリスマス会

〈終わりに〉

私たちは、地域の声を反映し、事業の見直しを継続していくことが、公民館にとっても、地域にとっても、一番大切なことだと学んだ。また、いろんな人たちと協力することで、地域をより良く変えていけることを知った。そして、いろんな事業に楽しく参加してもらえることが、私たち公民館職員の充実感、達成感につながっている。社北公民館では、これからも地域のみなさんと一緒に、公民館事業やまちづくりを通して、明るく楽しい地域創りに励んでいきたいと思っている。

社北公民館は、平成25年度に文部科学省より、優れた活動を行った全国の61公民館の中で、最優秀公民館として表彰されました。地域に開かれた公民館として、あらゆる年齢層の人々を巻き込んだ取り組みについて紹介しました。

1 概要

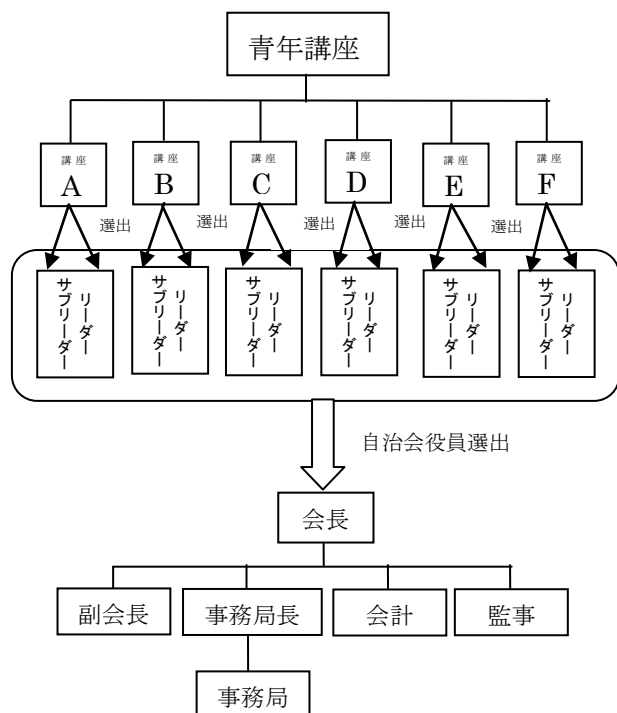
青年講座は、平成 19 年 4 月に中央公民館がアオッサに移転するに伴い、福井市が勤労青少年ホーム・勤労婦人センター・青年の家の事業を統合し、事業移管してできたものである。

平成 26 年度現在、「抹茶」「癒しのヨガ&フットセラピー」「楽ラク料理」「生花」「さわやかスマイル講座」「ペン習字」の 6 講座が行われている。

18 歳～39 歳の福井市内在住又は在勤の人を対象とした講座で、仲間との学びを通して人とのつながりを築き、協調性や社会性を身に付けることや社会活動への参画を目的としている。

また、この講座では、自治会を組織していて、講座の申し込みと同時に会費 1,000 円を払い自治会の会員となる。自治会は、会員の自発的な活動の推進を図るとともに、自治会員相互の親睦を図ることを目的として活動している。各講座からリーダーとサブリーダーを選出し、その中から選ばれた会長・副会長等の役員を中心に、講座とは別に集めた会費の中で、一年間やりたい活動を企画・運営している。(図 1)

(図 1) 青年講座自治会組織図



2 平成 24 年度の青年講座

受講生 136 名(自治会員 118 名) ※含複数講座受講者

(1) リーダー選出に苦心

青年講座は例年開講式後に、各講座でリーダーとサブリーダーの 2 名を選出している。毎年決める段階になると仕事を抱えることになると思いうのか立候補はなく、皆が下を向き重苦しい雰囲気となる。しまいにはじゃんけんでないと決まらないという状況であった。

(2) 青年講座自治会総会 6月22日(金)19:00~20:45 13名

例年、総会で会長等の役員を選出するのですが「4、5 名くればよい。」と言われていて、もう少し参加者が増えると良いのにと思っていた。そこで、開講式後に各講座で呼びかけるとともに、前年度から参加している方や、講座申込の段階で皆と交流を持ちたいと思っていると感じた人に個別の声掛けを試みた。そのかいがあつてか、この日は 13 名の出席があつた。

(3) 青年講座自治会ネット配信

最近の若者はインターネットを通じて情報の発信、収集をしている。つまりインターネット上に基となる情報がない場合は若者に情報が届きにくい状態だということだ。そこで自治会のメンバーにブログを立ち上げ、情報の発信をしてもらえないかと話を持ちかけた。ブログが立ち上がれば、各講座の様子がわかりつながりもできやすくなる。会長の U さんが「じゃあ、やってみましょう。」と声を出し、中央公民館のホームページからブログへの入口ができた。

(4) カフェタイム

昨年、講座によっては技術の習得のみになっていて、同じ部屋で学んでいるにも拘らず、ひとこともしゃべらずに帰る状態の講座もあることに気が付いた。コミュニケーションがなかなか取れずにいる。これでは横の連携を図ることもできない。「講座の中での交流で話が出来るしくみは作

れないだろうか」「ひとつの目的があるとコミュニケーションが取りやすいのではないだろうか」と考え、同じ学びを共有している者同士の安心感のある講座で、2、3ヶ月に1度おしゃべりをする時間を設けてみることにした。「カフェタイム」と名付けた。「その時にお茶とちょっとしたお菓子があればなおいいのに・・・」との思いがあったが、予算がない。そこで、自治会に公民館のねらいを伝え、「自治会費で予算を組んでもらえないだろうか」と話してみたところ「いいのではないか」とのことで、平成24年度は、一人当たり250円の予算を組んでもらえることになった。青年講座募集パンフレットにカフェタイムのことも載せて、公民館事業を理解してもらう手がかかりとした。

(5) Iさんの自発的な活動「抹茶通信」

公民館に出入りしている青年に「やりたいことがあったら言ってみて。サポートできることはできるだけしたい」と伝えると、数年間抹茶講座を受講しているIさんが、「今年は『抹茶講座通信』を出していこうと思う。できれば毎講座の発刊を目指したい」とのことであった。Iさんは抹茶を以前から習っていて、茶道に対する興味を深めるためにも多くの情報をわかりやすい形で、同じ講座生に届けたいという気持ちのようであった。さらに、『抹茶通信』を発刊するに当たり、原稿を講座の講師に見てもらった上で発刊したい。通信は公にせず抹茶講座生のみに配る。青年講座受講生であれば、希望があれば渡す」との提案もあり、そのように進めてもらうことにした。

Iさんの前向きな思いと、更に慎重に進めようとする姿勢を見て、この自発的な活動を他の青年たちに伝えるために、今年度から取り組んでいる「青年講座通信」で全講座生に伝えた。

3 気軽に立ち寄れる場所に

青年に公民館は気軽に立ち寄れるところなんだと思ってもらいたい。そのためには出入りしやすいように、カウンター越しに話をするのではなく、

時間があるのなら中に入ってもらうように声をかけをしていく。そして、講座の道具を片付けるときも時間があれば一緒にその場において言葉を交わすようにする。それを地道に繰り返すことで訪ねて来る青年が増えてきたように感じる。仕事帰りに、出かけたついでに寄ってくれるようになってきた。そして一緒に話す、話を聞き入れる、お願いできる場所は任せて提案する。そこから広がるものを大切にしていきたい。

楽ラク料理（青年講座ブログより抜粋）

2回目の講座から、いつもと違う試みがありました。それは・・・、班替え！！

例年なら1回目の講座の時に、〇〇さんはA班、△△さんはB班、といったふうに決められてて、最終まで基本的には自分の班内でお料理を作るのですが、今回は講座に来た人から順番に名簿に名前を書き、自分の名前の列に班のアルファベットが書いてあるので、その班に行く！という仕組みです。

こんな説明でわかる？説明べたですみません・・・つまり！毎回班が違うので、お料理メンツも変わるので☆初めまして～♪もあり、こないだはどうも～☆もあるのです。ん～、中公さん(中央公民館の略)考えましたな～！

毎回いろんな人とおしゃべりできるので、結構評判はいいみたい☆



青年講座開講式



自治会総会風景



福井市の公民館（つどう・まなぶ・むすぶ）編集後記

福井市の公民館は概ね各小学校区に1館設置されており、地域と一体となって全国的にもレベルの高い社会教育活動を展開していると言われていました。そしてその証として、平成25年度には第66回文部科学大臣優良公民館表彰において、社北公民館が最優秀館に選ばれました。続いて平成26年度には、第5回全国公民館報コンクールで円山公民館の「広報誌えんざん」が最優秀賞に輝きました。それまでにも、ほぼ毎年、本市のどこかの公民館が優良公民館表彰を受けてきました。

しかし、本市の公民館のすばらしさについて、具体的などころまでは市民の皆さんにあまり知られていないのではないのでしょうか。また、公民館の在り方について全国的に活発に議論されているなか、本市での議論に対応できる資料があるのか危惧されていました。そのような中、昨年度、本公民館運営審議会から本館の業務の1つ、生涯学習情報の収集・発信の一環として、地区公民館の特色ある活動事例を収集した「福井市公民館だより」(仮称)を発刊すべきとの提言をいただきました。そこで、生涯学習室のご指導をいただくとともに本館運営審議会にも諮り、また関係公民館のご協力をいただき、ここに本冊子を発行するはこびとなりました。

本冊子を通して、福井市の各地域の特色を踏まえ、地域住民の皆さんと一体となったすばらしい公民館活動や、生涯学習の拠点としての公民館の存在意義が、広く市民の皆さんに認知されることを願っています。また、各公民館の英知を絞った特色ある活動を、全公民館が共有することを通して、本市公民館全体の一層の充実発展につながることを願うものです。各公民館のご協力をいただき、数年かけて市内すべての公民館の特色ある実践活動を紹介していきたいと思っています。そして、より多くの皆さんに永く愛読されることを願ってやみません。

最後になりましたが、創刊号発刊にあたりまして、快く取材に応じ貴重な資料を提供していただいた森田公民館並びに社北公民館職員の皆様をはじめ、発刊にご支援とご協力をいただきました関係者各位に厚く感謝申し上げます。

平成27年2月

福井市中央公民館
館長 川端喜彦

公民館メールマガジンのご案内

メルマガ会員を募集中です。

各公民館の「毎月の行事予定」「教室・催し」「お知らせ」など月に1、2回メール配信が届きますので、ぜひご利用ください。

空メールを送るだけで簡単に登録できます。

右のQRコードを読み取って希望の公民館を選び、空メールを送信
返信メールが届けば、登録完了です



創刊号 掲載館

公民館名	住所	電話番号	メールアドレス
森田公民館	〒910 - 0145 福井市下森田藤巻町2	0776 - 56 - 0195	morita-k@mx1.fctv.ne.jp
社北公民館	〒918 - 8055 福井市若杉4丁目308	0776 - 35 - 9111	ykita-k@mx1.fctv.ne.jp
中央公民館	〒910 - 0858 福井市手寄1丁目4-1	0776 - 20 - 5459	cyuou-k@mx1.fctv.ne.jp

福井市の公民館 創刊号編集委員

中央公民館運営審議会委員	稲田 勝子・中嶋貴美江
生涯学習室	山本 麻子
社会教育指導員	加藤三重子・小林 修二
中央公民館	川端 喜彦・小清水直美
	田村 榮子・塩崎めぐみ

福井市の公民館

発行 平成27年2月
発行所 福井市中央公民館
監修 福井市生涯学習室

〒910-0858

福井市手寄1丁目4-1

電話 0776-20-5459

FAX 0776-20-1538

Eメール : cyuou-k@mx1.fctv.ne.jp

<http://www1.fctv.ne.jp/~cyuou-k>